

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

東 粉 浜 小 学 校

児童数

360

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	64.3	53.1	83.1	65.9
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	0	2.9	0	0
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

国語ではA・B共に大阪市・全国平均を上回った。Aでは基本的な漢字の書きとり問題や接続語の使い方等で確実に力を出し切れなかったが、平均無解答率が0%と学力の底上げが図られた。また、Bでは全国平均より3.7%高く、活用力がついてきている。算数ではA・B共に4領域とも大阪市・全国平均を上回るとともに、平均無解答率がともに0%で基礎基本の定着が図られ、活用力もついていることがわかる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

国語では、過去2年間校内研究として、「読むこと」に重点をおいた指導をしてきた結果、「読むこと」の領域がA問題・B問題ともに7~10%と大きく平均を上回った。また、前年度課題であった「話す・聞く」の領域にも意識して取り組み、課題を克服した。今後、国語科における習熟度別授業に力を入れ、「書く」領域を更に向上させる手立てを工夫するとともに、漢字の書き取りなど基本問題を徹底するよう全学年で取り組みたい。算数の高得点は当該学年が3年生の時から習熟度別学習を導入し、個々の児童に合った指導法を導入したことや、ノート指導を丁寧に積み重ねてきたこと等の成果と思われる。また、一人一人に丁寧な指導をしてきたことがA問題・B問題共に無解答率0%につながった。また、過去に出た問題や課題のある領域の問題に慣れるよう指導してきたので得点上位者の増加につながったと思われる。今後もこのような取り組みを継続していきたい。

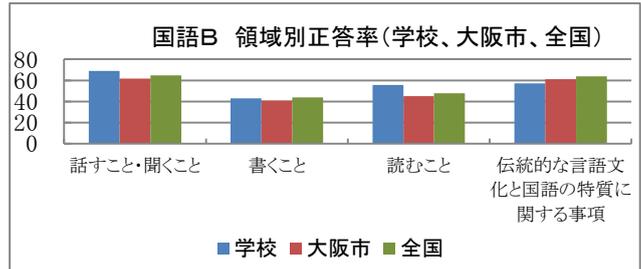
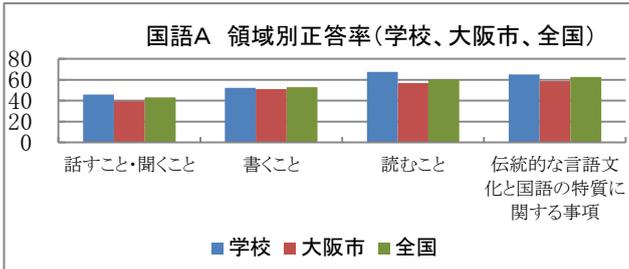
【国語】

結果の概要

A問題での平均正答率は、64.3%であり、大阪市及び全国の平均正答率と本校の正答率を比較すると、特に、「読むこと」について7%～10%程度上回っている。「書くこと」については、ほぼ平均であることがわかった。B問題での平均正答率は、53.1%であり、大阪市及び全国の平均正答率と本校の正答率を比較すると、やはり「読むこと」について8%～10%上回っている。本校児童の「読むこと」の力がついていることがわかる。

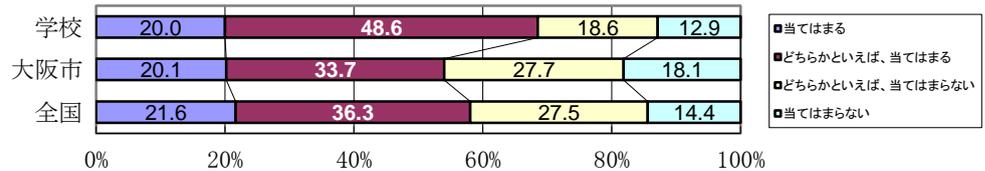
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	45.7	39.5	43.2
	書くこと	4	52.1	51.1	53.0
	読むこと	3	67.6	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	65.1	58.7	62.6

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	69.0	61.7	64.8
	書くこと	4	42.9	41.0	43.8
	読むこと	4	55.7	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	57.1	61.0	63.8

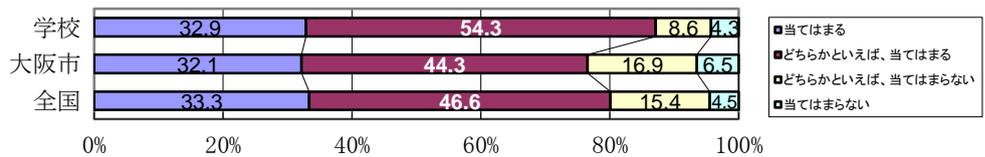


国語に関する「児童質問紙」

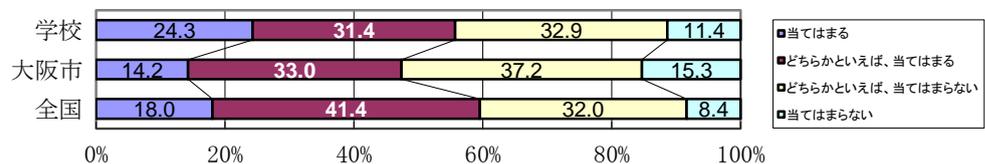
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



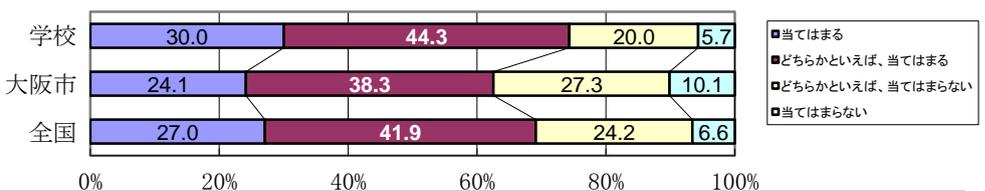
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

- ・漢字の「読み」については、よくできているが、「書き取り」については、誤答が多かった。
- ・文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を1文を2文に分けて書く、という問題に課題がある。
- ・2つの文を比べて読み、読み方の違いを捉えることは、比較的よくできているが、目的や意図に応じて必要な内容を引用したり複数の内容を関連付けたりしながら、自分の考えを書くことに課題がある。

今後の取組

- ・漢字の書き取りについては、日々の学習の中で基礎基本の徹底を図っていく必要があり、習得した漢字を文や文章の中で適切に使えるよう指導したり、正しく書くことができているか適切に評価していく。
- ・各学年の指導事項を徹底して、基礎基本の確実な定着を図る指導を進める。
- ・言語活動の充実を図るために、色々な学習指導の中で言葉の意味や用法を大切にしたり、自分の考えを書いたり表現したりする機会を多くもつよう、全校体制で取り組む。
- ・読書習慣の確立を図るよう、家庭への啓発を進めていく。

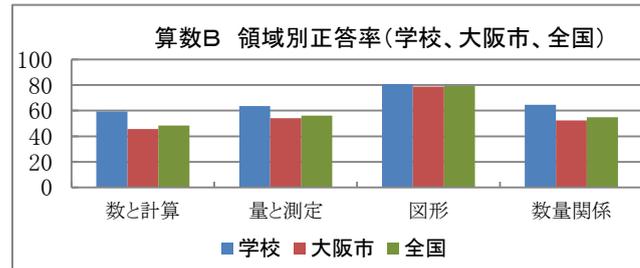
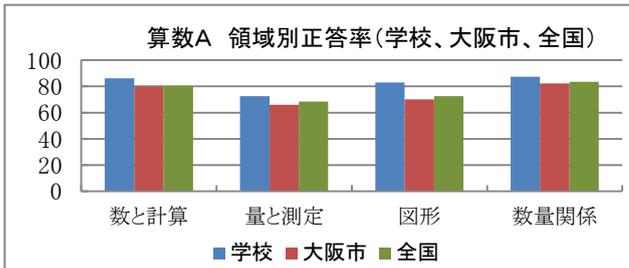
【算数】

結果の概要

A問題での平均正答率は、83.1%であり、大阪市及び全国の平均正答率と本校の正答率を比較すると、すべての領域で上回っている。特に「図形」で大きく上回っている。B問題での平均正答率は、65.9%であり、大阪市及び全国の平均正答率と本校の正答率を比較すると、やはりすべての領域で8%~10%程度上回っている。点数分布でいえば、大阪市や全国に比べて高得点の人数が多く、平均点あたり的人数が少ないことがわかった。

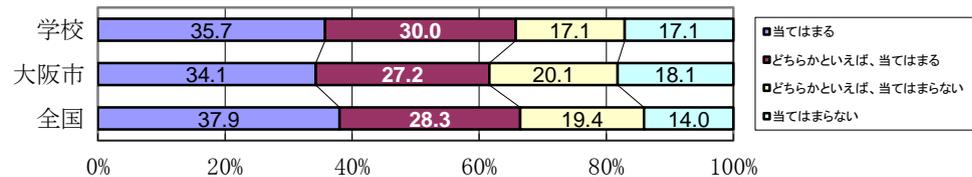
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	86.2	79.8	80.2
	量と測定	4	72.5	66.0	68.3
	図形	3	83.1	70.2	72.5
	数量関係	4	87.3	82.2	83.4

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	3	59.4	45.7	48.3
	量と測定	7	63.6	54.1	56.0
	図形	3	80.7	78.8	79.3
	数量関係	7	64.6	52.4	54.9

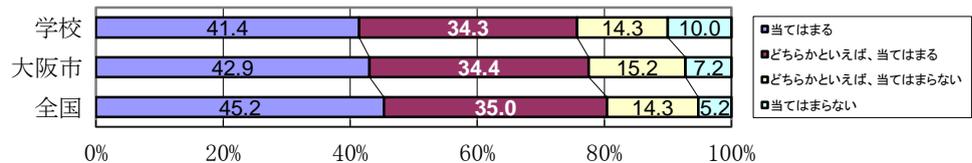


算数に関する「児童質問紙」

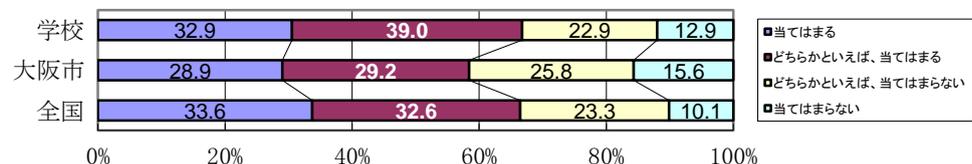
I 73 II 62 III 72
算数の勉強は好きですか



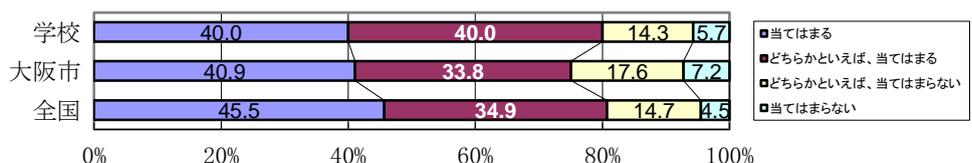
I 75 II 64 III 74
算数の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 77
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 80
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

- ・基礎基本の定着が図られ、A・Bともに大変よくできていた。
- ・資料を読み取り、理由を書く問題で平均を10%上回っていたのは、読み取る力が高まった成果である。
- ・面積や長さの単位の定着を図るために、下の学年の学習内容をくり返し学習させることを重視してきた。
- ・単体量当たりの求め方について、数量の関係をとらえさせながら、式を読み取る活動も丁寧に指導してきた。

今後の取組み

- ・数のしくみや計算の仕方、測定、数量の関係などについての意味理解を深めるために、具体的操作などの算数的活動の充実を通して数学的な見方・考え方を育てる。
 - ・グループ指導・習熟度別少人数指導などでも言語活動を充実させ、自分の考えを書いたり説明したりする活動を多く取り入れ、筋道を立てて考える力や表現する力をつけるよう取組みを進めたい。
- また、子どもたちが算数が好き、楽しいという授業を工夫することも大切にしたい。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

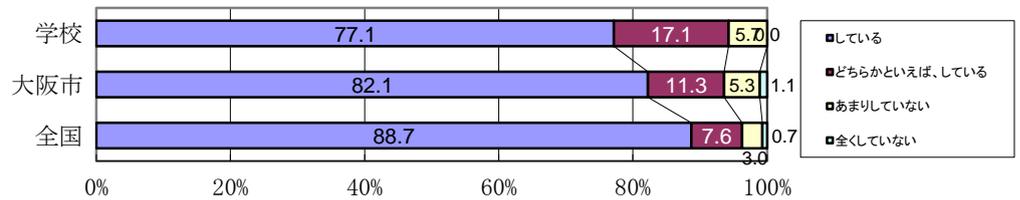
結果の概要

基本的生活習慣の中でも特に「同じ時間に寝ているか」と「朝食を食べているか」の質問で「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は、大阪市・全国とほぼ同じ割合であるが、たまに食べなかったりあまり食べない児童が5.7%あり、基本的な生活習慣をつけるよう働きかけが必要である。

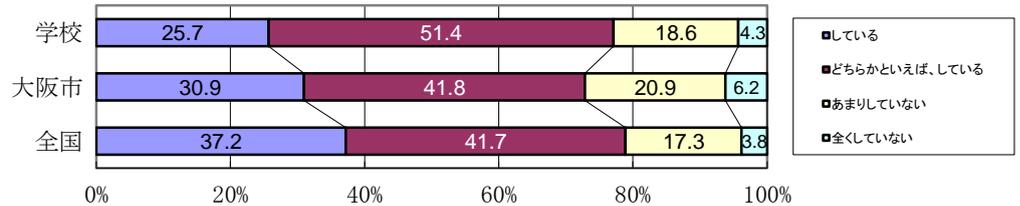
「自分にはよいところがあると思うか」の質問では、7割の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている。自尊感情を更に高めたい。「学校の決まりを守っているか」の質問にはほとんどの児童が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えていることは、児童の規範意識の高さがうかがえる。

質問番号	質問事項
------	------

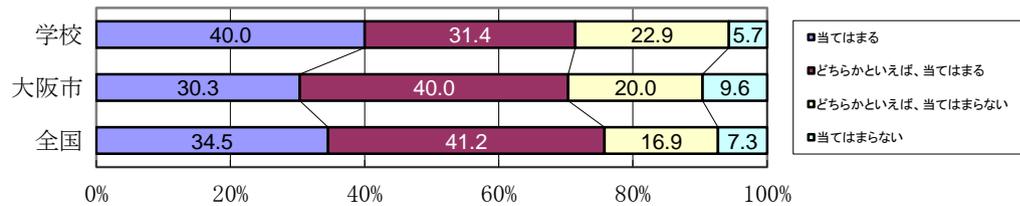
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



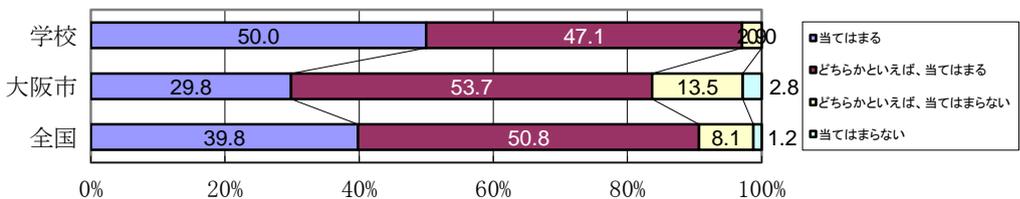
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 44
学校のきまりを守っていますか		



成果と課題

・学校のきまりを守る規範意識が大変高まっている。6年生がきまりを守る模範となってくれることで他学年へよい影響がひろがり本校の伝統的な校風となっている。

・課題としては、本学年では朝食をあまりとらないという児童と寝る時間が不規則という児童、やや不規則という児童の実態把握に努めると共に家庭への啓発が必要である。

今後の取組

- ・規則正しい生活習慣を具体的に促す家庭への働きかけをしていく。
- ・道徳教育を充実させ、特に規範意識や公德心などの項目を重視した指導を継続する。
- ・自尊感情を高めるために、「ほめる・認める・励ます」指導を全教職員が共通理解して進めていく。

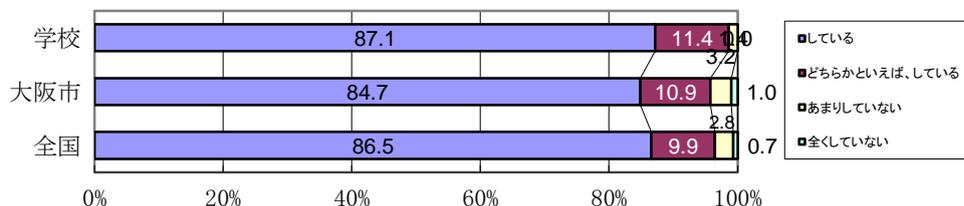
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

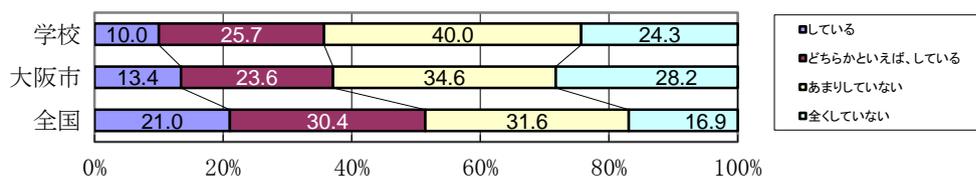
家庭での学習について「家で、学校の宿題をしているか」では、ほとんどの児童が「している」「どちらかといえばしている」と答えているが、「学校の授業の復習をしているか」では、大阪市や全国の割合と比べて低いことがわかった。また、「読書は好きですか」では、50%以上の児童が、「あてはまる」と答えていて、読書好きな児童が多いことが伺える。「自分の考えを他の人に説明をしたり、文章に書いたりすることはむずかしいか」では、「思わない」「どちらかといえば思わない」と答える児童が全国・市平均より多く、話す・書くなどの表現に苦手意識を持たない児童が多い。しかし、まだまだ伸ばしていく必要がある。「話し合う活動をおこなっているか」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が、90%であり、日々の取り組みでも重視してきたことがわかる。

質問番号	質問事項
------	------

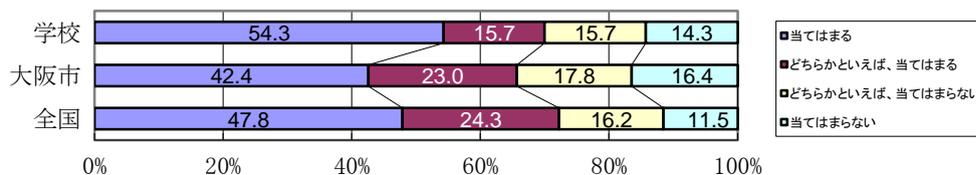
I 30	II 25	III 35
家で、学校の宿題をしていますか		



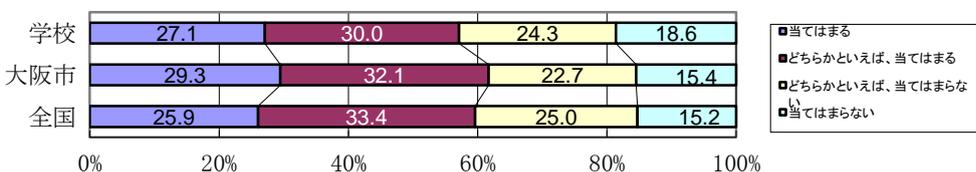
I 32	II 27	III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか		



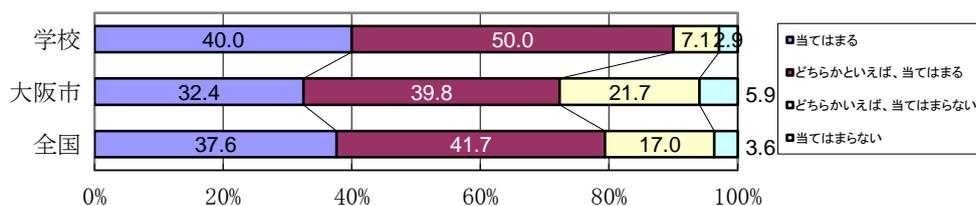
I 56	II 55	III 65
読書は好きですか		



I 52	II 51	III 60
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか		



I 50	II 48	III 56
普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか		



成果と課題

宿題については、ほとんどの児童が肯定的な回答をしているのに対して、復習については、その割合が低くなっている。そのための家庭での学習方法を具体的に指導する必要がある。また、読書については、朝の一斉読書タイムを実施したり図書室の開放日を増やしたりして意欲的に本をよく読む児童が増えてきているが、低学年から読書習慣を身につけさせるよう取り組む必要がある。話し合い活動については日ごろの学習の中で行われていて、引き続き指導をすすめていきたい。

今後の取組

- ・家庭学習の習慣化を啓発をしていく。
- ・学校では、楽しんで読書ができるよう環境整備をしたり、学校図書館や地域の図書館を活用するよう働きかけていく。読書がすきということと、読書量とは必ずしも比例しないことから、実態を把握して読書習慣の確立に向けた取り組みを工夫していく。